

No.	発言者	意見	対応
1	野口博 会長	世界基準ともいうべきSDGsについて、本計画内にどう位置付けるか、より詳しく追記されたい。	「時代の潮流」中、「SDGsを踏まえたまちづくりの推進」の記述を再整理し、世界、国、そして本市での考え方（日本一健康文化都市との関係性）を記述。（企画政策課）
2	杉保聡正 副会長	市民力を発揮して、公助に頼るのではなく、自助・共助をしっかりと確立して、流域全体でいのちを守る、水害に対応するまちを創って欲しい。大切なことなので今一度強調しておきたい。（市民力と危機管理は一体的な関係）	分野横断で取り組む考え方（PART1）「誰もが個性と能力を発揮しかつやくできること」中、「市民力」が発揮される一例として「災害発生時」を追記。（企画政策課）
3	杉保聡正 副会長	政策5取組1基本方針6「感染症予防の指針」において、今のコロナに対する対策も、おそらく市の来年度予算の柱にもあると思うので、そこまで読みとれるようなことも入れておいた方が良いのではないかと。	感染症資機材の整備について追記。（健康づくり課・危機管理課）
4	杉保聡正 副会長	「分野横断で取り組むべき考え方」について、タイトル分の表現を少し改めてはどうか。例えば語尾を「～できること」「～暮らせること」など、それを考えて皆が横断的に政策を創っていく、とすると分かりやすいのではないかと。	左記のとおり修正。（企画政策課）
5	大場規之 委員	政策1取組2「未来に輝く若者の育成」の中で、ICT教育だけでなく、既存の教育の効果もとても大きい。ICTの教育による効果、既存の教育による効果、両方の最大化を目指すこと、これが非常に大事だと思う。それを可能であれば協議して計画内に追記して欲しい。	これまで大事にしてきた教育（委員意見の「既存の教育」）をベースとした上で、ICT機器を新たな手段の1つとして活用していくことから、計画内に含まれるものとして整理する。（学校教育課）
6	大場規之 議員	政策1取組2「未来に輝く若者の育成」の取組指標のうち、「全国規模の学力調査で全国平均正答率を100とした際の指数（小6・中3）について、目標値が小6は目標値100.0、中3は105.0となっている。本来、目標値は同一であるべきではないかと。	小中で分けない形で目標値を再設定。（学校教育課）
7	大場規之 議員	「学校給食における市内産野菜の使用率」について。現状値が34.8で目標値が33.0と下がっているのはなぜか。上げた方が良いのではないかと。	市内産野菜の使用率は、天候に大きな影響を受ける。H30・R元年度は天候に恵まれたため、例年と比較して使用率が高くなった。（参考：H26～H29年度の平均26.5）今後は、生産者の高齢化による作付け中止や出荷困難も予想されるため、使用野菜の1/3程度（33%）を市内産で賄うことを維持していくこと目標として設定した。（おいしい給食課）
8	澤木久雄 委員	袋井には世界的アスリートが来るのでまちづくりに生かさない手はない。エコパで開催されるスポーツと市民との関わりをもっと深いものにしていくと新しいビジネスにつながるのではないかと。また、スポーツと市民、あるいは市内の産業界の交流から生まれる新たなビジネス興しは、スポーツ界だけではなく、市民の各層、ITやコンベンション分野、観光、飲食、医療などの他の分野を巻き込んでいく必要と考える。	政策2取組5「」中、「SDGsを踏まえたまちづくりの推進」の記述を再整理し、世界、国、そして本市での考え方（日本一健康文化都市との関係性）を記述。（企画政策課）
9	志村昌大 委員	ACP（アドバンス ケア プランニング：人生会議）を推進してはどうか。今回の新型コロナウイルス感染症では、短期間のうちに呼吸状態が悪化する事もあり、人工呼吸器の装着や蘇生による延命措置等、人生の最終段階における医療・ケアについて、あらかじめ本人と家族・医療などがACPを共有し合う必要性がさらに増している。	政策2取組3「安心できる地域医療の充実」の中に追記、それに併せて政策2「健康長寿で暮らしを楽しむまちを目指します」及び政策2取組2「いきいきと暮らせる健康長寿の推進」の記述も一部修正。（地域包括ケア推進課）
10	高橋美穂 委員	人と人とのつながりを大事にするというところで、予防医学に対しての取組を着実に進めて欲しい。どの世代も予防医学をしっかりとしていくということで、例えば感染防止にしても、まず基本的な健康な体づくりをしっかりと行うことが重要。	生活習慣の改善を促し、生活習慣病等を予防することは重要であり、引き続き政策2取組1「生涯しあわせに暮らす健康づくりの推進」の中で取り組んでいく。（健康づくり課）
11	高橋正則 委員	自治会活動の担い手の確保が難しくなっているので、行政としてどのような形で関わられるかを研究した方が良いと考える。	政策6取組1「市民と行政の協働によるまちづくり」を進める中で、担い手の確保についても研究していく。（協働まちづくり課）
12	遊橋裕泰 委員	計画を推進していく中で、良い面だけでなく、影の部分も出ていくと思う。影の部分を予見しながら、横断的なところでその視点を持って取り組んでいただきたいと考える。	分野横断で取り組むべき考え方「基本的な考え方」の中に左記の考え方を追記。